

各位

上場会社名	株式会社Def consulting
代表者	代表取締役社長 下村 優太 (コード：4833 東証グロース市場)
問合せ先責任者	管理部管掌執行役員 岩崎 雅一 (TEL 03-5786-3800)

デジタル資産トレジャリー戦略の強化に関するお知らせ
～SSV Labs 等との4社間連携によるイーサリアム (ETH) 運用の安全性向上と収益最大化～

当社は、デジタル資産トレジャリー事業におけるイーサリアム (ETH) 運用のさらなる高度化を目的として、イーサリアム (ETH) 向け分散バリデーター技術 (DVT) プロトコル「SSV Network」を開発する SSV Labs (CEO : Alon Muroch) を新たなパートナーに迎えました。

これにより、株式会社ビットポイントジャパン (以下「BITPOINT」)、P2P.org、SSV Labs との強固な4社間連携を開始したことをお知らせします。

当社は、2025年12月23日付で「Def consulting がP2P.org、BITPOINT との連携で目指す「ETH運用の高度化」について」を発表しておりますが、今回、世界最先端の技術を持つ SSV Labs が加わることで、当社の運用基盤はグローバルスタンダードのより強固な体制へと進化します。

記

1. 背景及び目的について

当社は、IT ソリューションを軸とする総合コンサルティングファームとして、2025年よりデジタル資産トレジャリー事業を本格化させており、イーサリアム (ETH) をバランスシートの核に据え、ステーキング報酬を通じた継続的な収益創出と中長期的な企業価値向上を目指す「イーサリアム (ETH) トレジャリー戦略」を推進しております。

これまでは、イーサリアム (ETH) の取得・保管・運用 (ステーキング) を BITPOINT が、バリデーター運用を P2P.org が担当しておりましたが、今回、DVT 分野で世界最大規模のシェアを誇る「SSV Network」を新たに運用フローへ組み込むことで、「運用リスク (ダウンタイム等) の極小化」及び「インセンティブ報酬の獲得による運用収益の最大化」を同時に実現する予定であります。

2. DVT (分散バリデーター技術) 導入による2つのメリット

(1) 運用リスクの分散と安全性の飛躍的な向上

DVT 技術の導入により、ステーキングにおける鍵の管理・運用を複数の独立したオペレーターに分散させることが可能となります。

これにより、万が一特定のシステムに障害が発生した場合でも、他のシステムが自動的に補完して運用を継続できるため、単一障害点 (システム全体の停止リスク) を排除でき、結果として、ペナルティ (スラッシング) リスクを極限まで低減し、極めて安定した報酬獲得体制を実現します。

(2) 「二重の収益機会」によるステーキング報酬の最大化

SSV Network (※) が提供するネットワーク参加者向けのインセンティブプログラムを活用することで、従来のイーサリアム (ETH) ステーキング報酬に加え、ネットワーク貢献に応じた「追加報酬」の獲得が見込めます。

これにより、安全性を高めるためのインフラ投資が、同時に直接的な運用利回りの向上に寄与するという、極めて合理的かつ先進的な運用モデルとなります。

(※) SSV Network は、DVT (Distributed Validator Technology) を核としたイーサリアム (ETH) 向け完全分散型オープンソースプロトコルです。総預かり資産 (TVL) は150億ドルを超え、600万ETH以上のステーキング実績を持つ、世界最大級のDVTインフラです。SSV Labsはそのコア開発チームとして、

バリデーターの鍵を複数の独立したオペレーターに分散管理させる「Secret Shared Validator (SSV)」技術を牽引しています。

3. 連携パートナー各社の役割・強み

▶ 株式会社ビットポイントジャパン：

国内屈指の暗号資産交換業者として、法人のデジタル資産活用を支援するセキュアな取引・保管基盤を提供。

▶ P2P.org：

40以上のブロックチェーンに対応し、運用資産70億ドル超を誇る世界最大級のステーキングインフラプロバイダー。

▶ SSV Labs：

DVTプロトコル「SSV Network」のコア開発チームであり、分散型ステーキング技術におけるグローバルリーダー。

4. 株主及び投資家の皆様へのメッセージ

当社は、単にイーサリアム (ETH) を保有するだけでなく、ステーキング報酬を収益の柱の一つとして確実に成長させていく戦略を掲げております。

今回、世界的な技術基盤である「SSV Network」を自社の運用基盤に統合できたことは、万が一の障害時にも運用が停止しない「法人として理想的なリスク管理体制」が整ったことを意味しております。

さらに、本連携は単なる守りの施策にとどまらず、インセンティブプログラムによる「上乘せ報酬 (アップサイド)」をもたらします。

「安全性を徹底的に追求した結果として、収益機会も最大化される」という本連携の強固な体制のもと、株主の皆様に対し、デジタル資産活用を通じた着実な成果をお示ししてまいります。

5. 今後の見通し

当社は、本連携を通じて構築した強固な運用モデルを「イーサリアムトレジャリー戦略」の標準とし、今後もWeb3時代の新たな財務・資本戦略を体現してまいります。

世界水準のステーキングインフラを自社の運用に活用していくことで、国内の上場企業におけるデジタル資産活用のロールモデルとなることを目指します。

本件につきましては、当社業績への影響は軽微であります。

以 上